

- v) *f. nigrescens* (Hara) Ohwi et Ohashi, comb. nov.—*P. hirtus* f. *nigrescens* Hara, l. c. 12 クロヤエナリ
- vi) var. *setulosa* (Dalz.) Ohwi et Ohashi, comb. nov.—*P. sublobatus* Roxb., l. c. 288—*P. setulosus* Dalzell in Journ. Bot. & Kew Misc. 2: 33 (1832)—*P. sublobatus* var. *setulosa* (Dalz.) Prain in Journ. Asiat. Soc. Beng. 66 (2): 423 (1897)
- 6) *Vigna reflexo-pilosa* Hayata in Journ. Col. Sci. Imp. Univ. Tokyo 30: 82 (1911) オオヤブツルアズキ
- 7) *Vigna riukiensis* (Ohwi) Ohwi et Ohashi, comb. nov.—*P. riukiensis* Ohwi, l. c. 437 (1937) ヒナアズキ
- 8) *Vigna umbellata* (Thunb.) Ohwi et Ohashi, comb. nov.—*Dolichos umbellatus* Thunb. in Trans. Linn. Soc. 2: 339 (1794) ツルアズキ
- i) *f. pallida* (Nakai) Ohwi et Ohashi, comb. nov.—*P. Ricchardianus* var. *pallidus* Nakai in Bot. Mag. Tokyo 42: 473 (1928) シロカニメ

(国立科学博物館・東京大学理学部植物学教室)

○台湾・琉球の植物補遺 (4) (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: Supplement of the flora of Ryukyu and Formosa (4)

10. マルバルリミノキ マルバルリミノキは琉球、台湾の山地に普通にみられる植物である。この学名は松村、早田先生の頃まではアッサム、ビルマ、インドシナに分布する *L. wallichii* の名が使われていた。中井先生はそれとは異なるものと考え、香港から書かれた *L. plagiophyllus* にあて、フィリッピン *Mephitidia bordenii* も同じであると。東大の標本室には、*L. plagiophyllus* Hance のタイプの一部と見られる Ford が 1874 年香港で採集した標本がある。これはマルバルリミノキと全く同じである。中井先生の見解はそのまま現在も日本ではうけつがれている。ところがヨーロッパの学者は *L. wallichii* と *L. plagiophyllus* とは同じものと考えている。Hooker (1880) にはじまり、Pitard (1924), Craib (1934) にいたるまで一貫している。アッサムからインドシナのもの、華南から台湾、琉球のものと同種であるか、別種であるかということである。このくいちがいは日本に *L. wallichii* にあたる標本がないのでわからなかった。

最近たまたま京都大学と交換した標本の中に小川房人氏がタイで採集した *L. wallichii* があつた (South Thailand, Mt. Khao Luang, 700-1000 m. alt. no. 284, Feb. 18, 1962 and 500-700 m. alt. no. 269, Feb. 19, 1962)。また福岡誠行氏がバンコックの標本室にある Craib が同定し発表した *L. wallichii* の写真をとってこられた。これ

らはマルバルリミノキより葉がやや細く大形であること以外は全くことならない。マルバルリミノキにも時にそのような形の葉がでることもあるから、両者は同種と思われる。タイプであるアッサムのものは見ていないがヨーロッパの学者の見解を信用すれば、マルバルリミノキには *L. wallichii* の名を使うことが正しいと思われる。

Lasianthus wallichii Wight in Calc. Journ. Nat. Hist. 6: 50 (1846) non vidi; Hooker f., Fl. Brit. Ind. 3: 180 (1880); Maximowicz in Bull. Acad. Impér. Sci. St.-Pétersb. 31: 62 (1886); Forbes et Hemsley, Ind. Fl. Sinensis 1: 389 (1888); Henry, List Pl. Formos. p. 51 (1896); Matsumura in Bot. Mag. Tokyo 14: 16 (1901); Pitard in Lecomte, Fl. Gén. Indo-Chine 3: 378 (1924); Craib, Fl. Siamensis 2 (2): 220 (1934)—*Lasianthus plagiophyllus* Hance in Journ. Bot. New ser. 4: 196 (1857); Kanehira, Formosan Trees ed. 2, p. 670 (1936); Hara, Enum. Sperm. Japon. 2: 20 (1952); Liu, Ill. Nat. Introd. Lign. Pl. Taiwan 2: 1120, t. 939 (1962)—*Mephitidia plagiophylla* (Hance) Nakai, Trees and Shrubs ed. 1, 395 (1922)—*Mephitidia bordenii* Elmer ex Merrill in Philip. Journ. Sci. 1, Suppl.: 135 (1906)

Distr. Assam, Khasia, Burma, Indo-China, Southern China, Philippines, Formosa and Ryukyu.

11. ヒゲナガキンギンソウ *Goodyera longibracteata* Hayata 昨年(昭和43)の3月、早稲田大学生物同好会の学生、内海淑子氏が、西表島大富のこうもり穴付近で変わったランを採集した。たまたま現地でのこの生品を見た山崎富佐子氏は、現地をさがしたが発見できなかった。帰京後、内海氏から標本をゆずりうけて調べたところ、1914年 田代安定氏が台湾の恒春半島高士仏で採集し、早田先生により新種として報告されたものと同じであることがわかった。台湾のこの類は近隣地域との比較が不充分なので、この学名が正しいかどうか検討の余地があるが、一応この学名を使っておく。台湾でも殆んど採集されたことのない植物で、琉球では勿論初めての発見である。最近、初島住彦氏が、西表で採集したこれと同じと思われる標本を入手していることを知った。新城氏が昨年8月仲間川上流でみつけたものである。西表島にはずいぶん調査に入った人が多いのにみつからなかったものが、期せずして同じ年に発見されたのは面白い。

Goodyera longibracteata Hayata, Icon. Pl. Formosanum 4: 114, fig. 61, a-b (1914).

Hab. Ryukyu Ins. Iriomote, Ohtomi, Kōmoriana (Toshiko Utsumi, March 20, 1968). New to Ryukyu.

Distr. Southern Formosa and Ryukyu.

(東京大学理学部植物学教室)